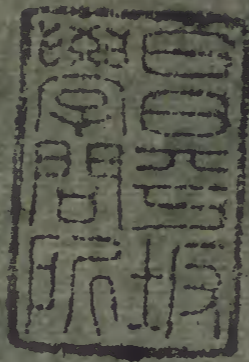


劔甲新論

上



和書門			
一	二	三	四
函	架	冊	號

34

內閣文庫			
五	一	和	
四	七	書	
函	四		
六	二	五	
架	冊	號	類

武備兵法

兵法十二

本

內閣文庫			
番號	和	17405	
冊數	2 (1)		
函號	154	34	

154-34



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



黃軒鈴木先生著

劍甲新論

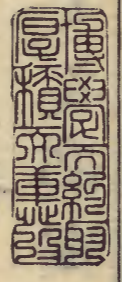
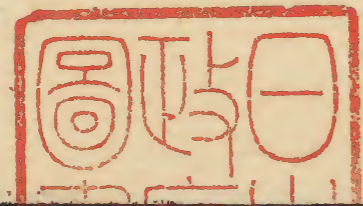
江戸書肆 青藜閣

水戸書肆 東壁樓發

淺草文庫

序

運籌帷幄決勝千里將之任也被堅執
銳惟敵是求士之事也是故士之臨陣
莫要乎劍甲二者甲以衛身劍以克敵
苟不用焉於此則其人雖勇其技雖精
意外取敗往有焉然則為士者豈宜置
之於不謀耶本邦中古以降禍亂相踵戎
器之制日新月精然亦不能無弊且如甲
冑但事觀美刀劍但尚長大不務實用



劍甲新論 卷上 序

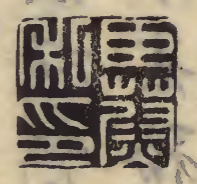
徒為驕矜之具而已此佐木四郎所以戒
其子不著重鎧蒲生參謀所以戒其五不
帶長刀皆所詔也卓見矣吾友鈴木振道
居常講兵術又用之軍器嘗著一書題
曰劍甲新論為上梨東以問于世當予一
言以冠其首余觀世之軍師禮亦於被甲
裝刀之法刺書稱有典故祕而不報告人
竊察其說大率煩碎迂拘及蒞矢石之際
灰生之地必恐不復能一一遵用乎今也

斯書一掃彼弊于說簡核務之適用凡為
士者得石漬之豫仿不虞之用必以裨益矣
若夫運籌帷幄決勝千里亦振道平日所
諄明而此編所及也近歲洋夷披猖屢
窺我邦其戰專用火器不喜短兵相接
於乞乎和兵制亦軍裝亦乃石之所治
革以應彼焉此乃當今急務將之之士
所宜留意也振道其亦有所論述乎且
刮目而待之

嘉永七年甲寅暮春既望

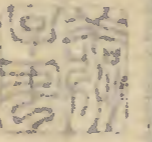
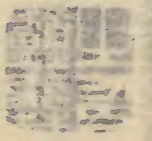
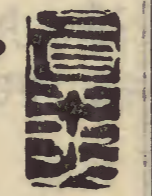
水府森蔚撰并書

此書之於世也猶如...



... (faded vertical text) ...

叙



凡物無不有形有形者必有名
有名者必不能無得失也故見
其形而知其物論其得失而能
事畢矣余子劍甲嘗舉之二
聊辨得失必曰劍甲新論蓋此

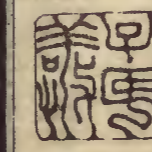
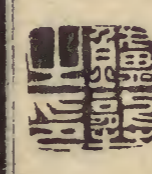
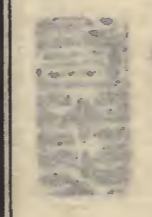
書也非供物雅之觀竊在篋底
以對童蒙之問耳

嘉永六年歲次癸丑冬十月十九日

於木鐸振道氏撰

山陰道下男汪莽恭謹書

録



劍甲新論

凡例

一 劍甲ノ来由諸記ニ委シ煩シケルハ爰ニ贅セズ但
 シ古ヘハ佩カラ太刀ト云刺刀又脇指ヲ打刀腰刀
 鞘卷刀ナト云方今ノ通稱ニ效ヒ或ハ大小或ハ刀
 脇指ト云混ズベカラズ

一 中古永祿天正ヲ比ヲ宗トスレバ的証ノ外上古ノ
 一品ヲ録セズ且諸器ニ故實ト唱ルモノ多ク公方今
 ニ便ナラズ當世ニ利アルヲ故實ノ本意ト知ルベ
 シ

一器械ノ製利害尠トセス單騎ノ士ハ事ニ臨テ速ナルヲ要トス故ト專ラ捷便ヲ求ル物ヲ舉グテ試ムル
 一雜具藥方等ニ至テハ出陣ニ遺失ヲラシメテ恐ルル
 一亦唯其品目又ニ録スルニハ出陣ノ長士古ノ
 一古來ヨリ戰衣ノ得失ヲ論スル者未タ嘗テ野服ヲ
 用ユルヲ如スル言者五條因於新論ト云ハルハハ
 一陣中ノ禮法等單騎ノ士ニ便ナルモノヲ載セ附録
 一加藤清正ノ軍詞ヲ記シテ其作法ヲ知ラシムル

劍甲新論

劍甲新論卷上

中身目錄

劍刀總說

劍甲滋味得失 樣試

中身撰用 十首六卦

鐔

搔入 六卦

柄鮫 口

柄卷 柄系

鞘 栗形 反角

帶 二八節

鍔

鍛煉 研磨

寸尺長短 輕重

鉏 切羽

縁頭

柄 六卦

目貫

目釘

下緒

劍甲新論 卷上 目錄

鞘留

脇指

小柄小刀

梗槩

陣中刀

刺刀

燧袋 犬招

皺文 柄袋

腰當

製作

計二十有六條

劍甲新論卷下

目錄

甲冑總論

塗笠

半天牟

帶 三尺帶

羽織

禪

股引

足袋

艸鞋

采幣

扇

團扇

鞭

太刀

槍

薙刀

弓箭

火砲

計十八條

雜具

陳具

幕同傳十八新

細引

小屋印

柿紙

一騎小屋

荷桶

陣鍋

陣鎌

陣鉞

陣鋸

鋤

鋤

釘

鋸

錐

釘貫

陣中作法

計十七條

馬具

馬具總說

鞍

切付

力革

馬糞

障泥

手助

腹帶

鐙

三懸

手綱

三尺繩

馬銜

四繩

鼻皮胴繩

馬柄

鞭

馬甲身面簾

乘馬印

手計十九條

附録

加藤清正軍詞

計八十三條

計

器具

器具

計

劔甲新論卷上

水藩 黄軒鈴木鐸編

劔刀扱説

夫劔刀ハ神代ヨリ傳リ武夫タル者治乱ノ要具タル

人徧ク知ル所ナリ然レ其製作沿革ノ次第利用得

失ハ弁知ラスバアル可カラズ古ハ騎戰ハ時ハ寸

ノ長キヲ用ヒ永祿天正ニ至テハ鬪戰尚烈クシテ寸

ノ短キヲ好ミ古ハ長劔ヲ摺上ケ鞞金物帶取等モ

取捨下緒ヲ附ケ引膚ヘ納メ上帶ニ指シ鬪戰スルノ

俗トナレリ今傳フル劔即チ其製ナルベシ

池田勝入齋長

久手討死ノ時帶セシ刀香山翁カ刀之ヲ戰場ニ用テ
劍考ニ見エ今ノ製作ト替ルトナシ之ヲ
利有ト心得ヘシ然ルヲ古製ニ基キ故實ニ效スナド
云ヒ或ハ異形不便ノ物ヲ造出シ是ヲ陣カト號シ子
孫ニ傳ント云餘亦入不覺ニ非ズヤ劍カハ尺寸アル
猶衣服ハ如シ入ニノ長短ニ因テ又尺寸ノ別アリ最
モ平常ハ長短ニ利害ノ關係スルトハ無キニ似タレ
ト戰場馳驅ノ間ニ至テ其害甚カク依テ常ニ製
造ヲ折中シ利用ヲ弁知シ外觀ニ泥着シ工人ニノミ
任スルハ愚ノ至リト云ヘシ
黃神從木撰

鍛煉 研磨

一何レモ各家ノ習アルハ強テ臆度ヲ以テ爰ニ説ベ
カラズ其人ニ問テ知ルヘシ
一刃味得失様試
一世ニ刃味又ハ肉置等ハ損利ヲ言モノナリ治平ノ
通弊ニテ取ニ足ラサル也如何トナレハ戰場ニ
ハ自ラ青砥ヲ携ヘ我ト研立ルモノナレハ也
ハ我丸刃ニ研ル腰刀世ニ遣ワレ又身トソ成ケル北條五代記近世堅物鍛ト云モ
ノ流行シ或ハ胄鹿角五徳或ハ稿束ナト截断スル
者アリ尤無用ナリナリ唯作ノ釣合恰好鏡ノ剛柔
曲折鍛ノ巧拙等ヲ試ムルハ然ルヘキナリ

一戰場ニハ鎧ノ上ヨリ打倒シ勝負ヲ決スルト心
 得ヘシ中古加藤清正ノ臣福西九郎太夫ハ大剛ノ
 士ナリ數度ノ高名ハ皆刀ナリ九郎太夫或時晝寐
 セシニ子供其刀ヲ取出シ物ヲ切テ此ニ瀝皮ヲ切
 レサルニヨリ其趣ヲ告タルニ大ニ立腹シ此刀ハ
 數度ノ覺ヲ仕タル刀ナリ試モノ為ス刀ニ非スト
 一其後尾州名古屋ノ御城普請ヲ清正ニ命セラレ九
 郎太夫モ彼地ヘ行テ在シ時喧嘩アリシニ其時九
 郎太夫脇指ニテ相手ヲ仕留シテ子供申出シ諫
 ケレハ漸合點シテ業ノ能刀ヲ買求タルト戰國遠

サカリテ後ハ放討ト云テラ武士ノ覺ト仕タルト
 ニナリ又喧嘩ノ為メ計ノ用ニナリタル故刀ニ刃
 味ノ僉議ヲスルトニ成タルハ太平ノ世ニナリ武
 風ノ移リ行ニ從テノトナリ戰國ニハ甲冑ノ上ヨ
 リ打ヒシキ勝負ヲ決シタルナレハ餘リニ鍔利折
 易カラシヨリ鈍ク曲リタル方益ナルヘシ彼刀モ
 戰場ニテ甲冑ノ上ヨリ打倒シ每度覺ヲ取ツラン
 カ喧嘩ハ時ニ素肌モ切レ兼シ故脇指ニテ刺殺タ
 ルナラント香山翁云キ
 一中古天正後ハ戰國遠サカリ或ハ下人放シ打或ハ

一生試ナト云モノ行レ行掛リ卑人等切捨テ業ノ優

劣ヲ試シテナリ我藩ノ雜賀氏ニ橋渡在銘備前一文字助宗長

二尺六寸余太八町念佛在銘備前長船守ト云ル名

カヲ蔵ス是先祖重光自ラ試サレシ刀ト云傳フ

一中古世ニ用ヒラレシ物関兼元有三代初同兼定有

代永正ノ祐定備前長船住人等也是勝レテ業ノ良物ナレ

バナルベシ

一寛永中飯尾市兵衛ト云者仕ヲ罷テ遠州見付近郷

ノ民ト喧嘩ノ時不破當太夫ト云浪人助太刀仕タ

ル時三人ヲ六ツニ斬放テ黄皮モカ、ラス不破カ

刀ハ希代ノ大物切トテ尼ヶ寄ヲ出ル時坂口是ヲ

與ヘタリ是永正ノ祐定也ト感状記ニ見エタリ

一或人云仙臺侯藩ニテ試物ハ一度ト云トナク必

ス三度以上ニテ作ノ巧拙ヲ定ムト云然ルヘキト

也

一前田延春播州姫路藩云備前打ハ鐵柔ニテ多分肌物ノ

業ハヨケレト其柔ナル變或ハ甘キニ失シ堅物ニ

掛テ切ヌ物アリ関打ハ鐵剛ニシテ業ノ能物ナレ

ト其剛ナル變或ハ堅ニ失シ肌物ニ掛リシブトク

切ヌモアリ此ニ依テ剛柔ノ善惡何レヲ何レトモ

言カタシシト云ハ新マ爾者ノ善悪ハ...

一 寸尺長短 輕重

一 劔ノ輕重長短ハ其人ニ在レハ一定ヲ為スヘカラ

ス中古英雄ノ人ニハ寸短ク輕キカヲ用ヒラレシ

ト見エタリ加藤清正朝鮮ノ役ニ寸ノ短キカヲ帶

シ利ヲ得ラレシトアリト又福島正則ハ二尺四寸

斗ノカヲ帶シ大坂方ニテ長カ指ト呼ハレシト又

大久保治衛門ハ大坂陳ニ長三尺余ノ野太カヲ帶

シ柄鞘氏ニ澁紙張ニシテ其製双引ノ如シト又真

柄十郎左衛門ハ五尺余ノ野太カヲ用ヒシト云



一 感狀記云本多政勝長劔ヲ好テ之ヲ帶ス板倉重宗

政勝ト對談ノ時我家来ニ引肌ノ上手アリ御望ナ

ラハ進スヘシト政勝申受ント云翌日二尺五寸ト

一 尺八寸ト大小ニツ遣シテ是ヨリ短キハ手前ニ

多シ御用ナラハ又進スヘシト云政勝重子テ寸ニ

合フ大小ヲ指テ重宗ニ見セラル重宗一覽シ是ニ

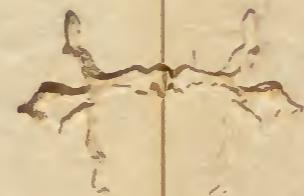
一 テ大小ノ寸一位短ク見エテ德アリト云政勝モ重

宗ノ下心ヲ察シタリ能キ異見ノ仕様ナリ

一 蒲生氏郷ハ馬廻百人ニ一尺九寸ノカヲ指サセ旗

本ヲ目掛テ来ル強敵ニハ槍薙刀等モ及ハヌモノ

ナリ其時ハ彼短劍ヲ抜キ短兵急ニ拳ニテ刺突ス
 一ル心得ニテ奮戦スヘシト也又如何ナル乱軍ト雖
 馬廻百人ハ列ヲ亂サス召連ラレシトイヘリ
 一奥州會津侯藩ニテハ陳カハ二尺一寸ヲ定法トス
 一ト云尤ナル也蒲生氏ノ遺風自然ト移リシニヤ
 一南郡ノ柴田氏信稱易簡業醫所蔵其最祖勝家カ帶セシ陳
 刀ハ柄黒色五分糸ニテ十一菱白鮫柄頭卷カテ目
 貫ハ烏銅車前艸ニ薑切羽鉏金着セ罈ハ木香形菊
 花ノ大透ナリ下ニ罈圖アリ鞘ハ胴金物モナク常ノ如シ
 一但花臘色漆中身ハ備前長船家助作在初代銘長二尺一



一寸斗両面ニ一条ノ血槽アリテ重子薄ク幅狭ク甚
 夕輕キモノ也外ニ関打磨上無名ノ刀長二尺三寸餘ノ
 品アリ是ハ勝家或ハ後軍又ハ兵粮送りナトノ時
 用ヒラレシト云右ノ家助ハ殊ニ秘蔵セラレ今日
 討死ナト覺悟極シ時ハ必ス用ヒラレシト云傳フ
 一中古明将勇士ノ陳刀ニ用ヒラレシ一ニヲ爰ニ舉
 ク本庄正宗磨上長二尺一寸五分半桑名正宗象眼銘長二尺二寸八分半表ニ本
 多中務太輔所持裏本阿弥判籠手切正宗磨上長二尺二寸六分半
 也天正三年十二月裏右幕下却摺上天津侍十郎拜領稻葉郷表長二尺二寸中心
 尉裏天正十三年二月江桑名郷分中心表本多
 戸本阿弥磨上之象眼ニ入

義濃守所持裏義弘 福島光忠 在銘長二尺一寸七分半 順慶左文

字筒長二尺三寸五分半中心表左裏 義元左文字 磨上

尺二寸一分半中心表通ノ中永祿三年五月十九日 義元討取ノ刻彼所持之刀裏平織田尾張守信長象

入眼

一佩刀ノ流儀ニモヨリ又人ノ武術ノ嗜アレハ一概

ニ論スヘカラス去レトモ寸ノ長キヨリニ尺一二

寸ノ物心ニ任セテ佩ル時ハ奔走馳驅ニ便ナルハ

シ是等常ニ遠馬遠足或ハ山林或ハ舟行ナトニ試

ミ知ルヘシ

一刀劔ノ寸ト身ノ寸ト云フ二箇アリ身ノ寸ト云ハ



片手一杯ナル中身ノ寸ヌ云譬ハ直立シテ鐔元ヲ

握リ手ヲ直ニ下シ中身ノ鋒先疊ニ碍ラヌヲ法ト

ス是ニテ抜打自在ナリト云

一黒田長政云歩卒槍ヲ持タヌ者ハ長キ刀然ルヘキ

下也槍ヲ取モノハ入ラサル長刀ヲ帶シテ何ニカ

スヘキトナリ

一細川幽齋云陳刀ハ二尺二三寸然ルヘシ常ハ長ク

モ抜安ク具足ノ止ニカラミ指テハ抜サルモノ也

且陳刀ハ譬ヘ名作ニ非ス長切レサヘ能ハ幾腰モ

拵ヘ持スヘシ合戦ニ及ヒ手ニ合ヘハ處ヲ嫌ワス

打切ル故殊ノ外又損ルモノ也合ハハズク弊ハ
 一 鏑アル物砥當リ物求ムベカラス九斗研アゲシ物
 一 ヲ撰用スベシ備ハ鑿定ノ法多端アレハ識者ニ問
 テ推知スヘケレド武夫ノ差料ハ先ツ曲折ヲ委ク
 又味ヲ吟味シ又能疵ヲ點檢スヘシ尤餘リ疵ヲ吟
 味セハ却テ良カラ求ムルヲエス武前緊要ノ疵
 ノミ撰テ其他ハ觀美ナク用捨アルヘシ差料ハ
 第一釣合恰好ヨク我ニ一點ノ疑念ナキヲ本トス
 且物嗜ヲシ數多キヲ欲スヘカラス事ニ臨テ疑惑

シ手入届カサルノ害アリ

一 近世衣類ト同ク劍ニ流行ノ品アリ如何ヲヤ夫劍
 ハ武夫終身ノ要具奮勇血戰ノ地ニ立テ身命ヲ頼
 ムノ重器ナレハ豈小兒ノ翫物ト等シカラシヤ
 一 不識庵謙信ノ陳刀備前長船長光兼光鈕元ニ藁込
 ノ通ル荒疵アリト然レ川中島ノ軍ニ十人ノ鏃
 炮臺トモニ切捨餘ル刀其武者ヲ切タルナト人口
 ニ膾炙ス古人疵ニ拘泥セサルヲ知ベシヤ
 一 菅原長根云荒割ハ疵ニ非ス必アル物也此トツ
 七十キハイト得難シ作ハ劣ナカラ應永前後ノ備

前物世ニ行ルハ此故ナリ又云建武前ノ備前物ニ
 ハ必染アリ處ニヨリテ許サレハ十二八九ハ用
 ルニ堪ル物ナカルヘシ古キ備前物ハ帽子ノ柔カ
 キモ刀ハ許シ来レリ
 一荒木一滴齋云幅廣ク重薄キ物ハ用方ニ宜カラス
 况ヤ片又物ハ甚惡シ必ス帶スヘカラス
 一又云身ノ及フ程ハ心ヲ用テ能ク撰ミ試ミ造ル者
 ノ優劣ヲ自得シテ心ニ一點ノ疑ナク繼令イカテ
 ル強敵鬼神タリ氏此劍ヲ以テ降伏スヘシト一決
 スル程ノ劔ニ非シハ身ヲ守ルノ器トハ成難カラ

シカ是ヲ以テ鍛冶ヲタノミニ泥ミ用ル寸ハ偽物
 ニモ劣ルモノ有ヘシ知言ト云ヘシ

一前田延春云山城大和美濃備後駿河肥後相摸石見
 伊勢北國ノ類ハ剛ニ屬ス備前備中但馬出雲伯耆
 陸奥武蔵筑前筑後薩摩ノ類ハ柔ニ屬ス是唯剛柔
 ノ情其方ニ流レ安キヲ云而已
 一又云疵ニ等シキ品ヲ大抵ニ論スルニ一ニ至テ細
 キ道具ニ至テ薄キ道具三ニ双先ヘ一面ニ匂先
 一ヲ掃出シタル道具是ハ一二ヶ處有テモ處ニヨリ
 實用ニ備ヘ難シ四ニ双シルキ道具是ハ多ク古刀

一勢州住村正三代アリノ外或ハ崇カナド云其他幾多ク
 刀劔ニ忌諱アルノ説多シト雖取ニタラス撰テ用
 一ハシ神佛ニ祈リ命ヲ乞ヒナド云テ真劔
 一世ニ神佛ニ祈リ命ヲ乞ヒナド云テ真劔大寶ハ幡宮尤多シ
 ヲ納ムル者アリ甚無用ニ似タリ何トナレハ本邦
 一至極ノ利カク廢物同様ニシ國家ノ要用ヲ欠クノ
 一前ナラス且非是真劔ニ非ザレハ念願叶ハズト云
 一ニモアルマジ願成就ノ後納ムルニ或ハ木劔又ハ
 繪馬ニテモ可ナラン然ルニ真劔ヲ納ムルハ尤歎

一長根云妖ヲ攘ヒ邪ヲ駈リ終身用ルトナクシテ人
 一ヨク服スハ劔ハ徳也骨ヲ截リ甲ヲ割リ連日戰テ
 一不彎不毀ハ劔ノ用也又文ヲ美ヲ愛シテ利鈍ニ拘
 一テサルハ劔ノ用ヲ失ヒ截断ノ利ヲ慕ヒテ巧拙ニ
 一拘ラサルハ劔ノ徳ニ戾ルヘシ巧ナラスハイカテ
 一カ靈アテハ靈アラズイカテカ身ヲ護ルニ足ン
 一至論ト云ヘシ

劔切羽

一突掛劔一枚劔二枚劔ノ製アリ切羽モ品類多シ此

一三物別テ得失ナキハ心ニ任スルシ但金銀ヲ用
ユヘカラス

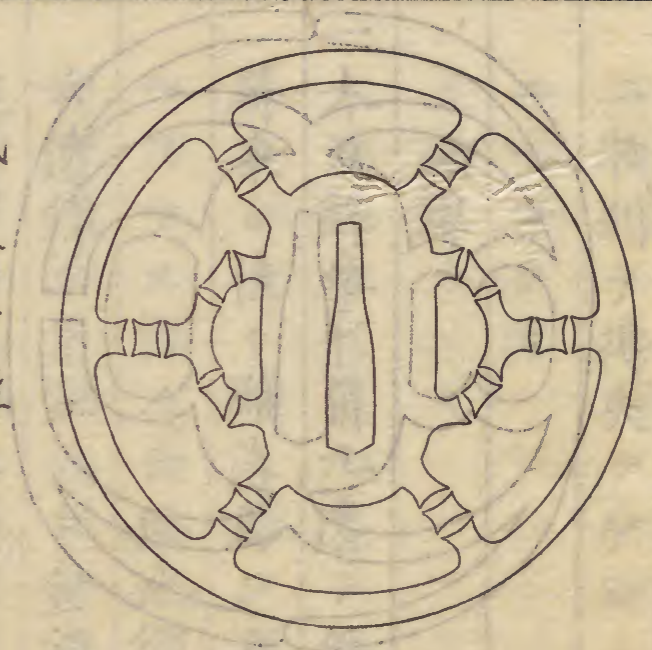
透鐔

一太刀鐔拳形角丸透シ無地鐔等ハ差次アリ角鐔ハ
屏乗ニ佳ト雖落馬シテ腹ヲ打テ此說取ニ足ス用
ヘカラス古人云無地鐔ハ手ノ裡ヘ響キテ惡シト
云透鐔ヲ用ユヘシ金銀ヲ鑄シモノ遠慮スヘシ但
腕貫アルベシ但武田信玄陳刀ノ柄ノ中程ニ胴金
ヲ以テ腕貫ヲ付シ圖アリ是イカニヤト思フ也腕
貫ハ鐔カ縁ノ處ヘ鉸方ヘ寄セテ付ヘシ

一今川義元武田信玄等刀盤ノ圖アリ左ニ録ス



今川義元鐔
笹蟹 内外切耳大サ圖ノ
如シ厚サ壹分半
其臣小倉内蔵介ニ賜
ト云



武田信玄鐔

徑三寸厚二分九耳

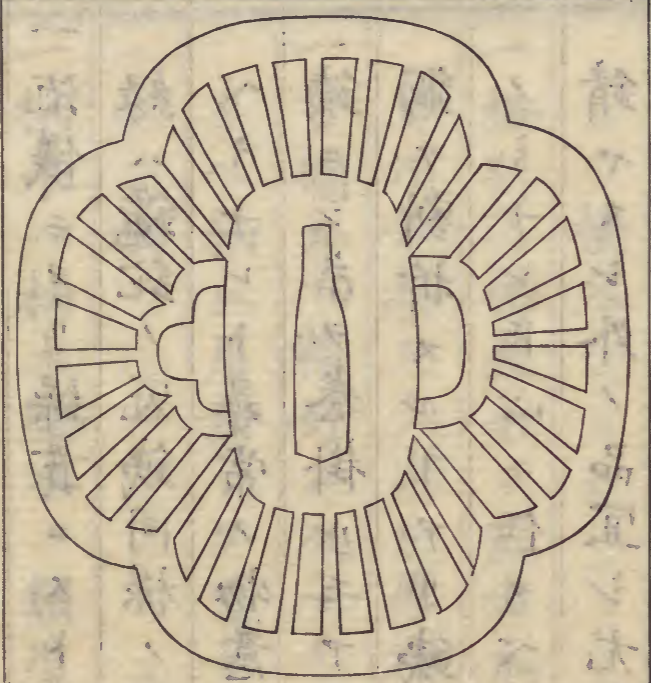
對州宰臣杉村氏藏スル處



榊原康政鐔

徑三寸一分九耳

杉村氏所藏



柴田勝家鐔

徑二寸六分余厚二分余九

耳

柴田氏所藏

一木香鐔ノミ太刀鐔ト云ニ非ス模様ノ轉逆ナラザ
ルハ都テ太刀鐔九角也信玄力鐔ノ如シ四方面
模様ノ物皆太刀鐔ナリ

一 古代ノ物ニ練罈華ニテ製スイト云アリ輕クシテ

便ナリテメ罈氏云

一 木香縁頭ニテ

一流儀ニヨリ練貫ニスト床上ノ妄談用ユヘカラス

縁ハ鏡鉈ノ冠鏡同様ノ物ナレハ縁底ナシ氏然ル

ベキナレト尋常ノ物意ニ随カヘシ柄頭ハ角又ハ

鏡ニシ糸ヲ卷掛ルモアリ引貫ニスヘシ角ハ物ニ

觸テ割折スルヲアリ鏡ハ其患ナシ頭鴉目ハ觀美

ノミナレ氏心ニ任スベシ但鏡縁頭ハ海風ニ値テ

錆ヤスシ外ノ品宜シ尤金銀ヲ忌ムヘシ

搔入

一格別ノ得失ナシ尤生木ハ惡シ枯タル程善シ近来

奥州若松ヨリ出ル厚朴木ヲ上ト云

一 替欄カヘ鞘好ム人アリ煩ワシ用ユヘカラス但シ

カヘ柄ハ用意シテ可ナリ

一 柄木ハ柚木堅木ノ類用テ佳ト厚朴木ニシカス常

ノ刃引ニテ試シヨルベシ

一 両ヲ片落或ハ刃方一文字ノ類アレ氏竜子柄ヲ

ヨシトス謙信帶セシ正宗ノ陳中古ノ柄ハ大槩中

刀即チ粒子柄也ト云

身ノ長短ヲ弁セス必ス十一菱ナリ戰場ハ馬上ノ
 片手打ナレハ成ルヘシ然ルニ近世ハ中身ノ寸尺
 ニテ柄ノ菱數ヲ定ム是畢竟工人次第ニシテ觀美
 ニ而巳拘ル故ナリ歎スヘシ
 一 劔尺云刀心ヲ摺立ルニモ先張ナルハ惡シ近世ハ
 生ヅカ心モ双方ヲ薄ク削リ丸ミヲ付ケ或ハ面ヲ
 一 トリ唯刀心ノ形像ハ恰好ノヨク見ユルヲ是也ト
 シテ摺立ル故也双方ノ薄キ刀心ハ討合數合ニ及
 一 べハ必ス柄木ヲ破リ手ノ内ヲ痛ムル物ナレハ双
 方ハ厚ク角ニ摺立テ刀心先ノ張ヌ様ニナスヘシ

古作ノ雉子股或ハタナゴ腹其外一体ノ刀心先細
 ナルヲ見テ古人ノ總テニ意ヲ用シ信實ナルヲ感
 スヘシト云是皆席上ノ臆度無稽ノ言也用ユヘカ
 ラス古作ノ中心双方ノ厚キ物十二一双方モナキラ
 一 見テモ知ルヘシ楮打合數度ニ及べハ双鉦ノ響ニ
 テ柄木ハ損破スヘシ次ニ云如ク柄鮫ヲ大夫ニス
 ルニ如ス

柄鮫

一 上品ナルヲ撰ム者アリ又塗鮫ヲ好ム者アリ共ニ
 雨濕ニ堪難シ用ユヘカラス鮫ハ麥漆ニテ着セゴ

ロシニシ其上ヲ地ヲシテ塗固ルヲ上トス是ヲ一
 兩日水ニ浸シ試ムルニ鮫ノ浮クヲナシ上ニ云上
 品ノ白鮫塗鮫ノ類ハ水ニ附テウク一速ナリ又中
 古下卒ノ柄ハ細麻ニテマキ或ハ布ヲキセ地ヲシ
 テ塗タルアリ常用ノ塗鮫ヨリモ丈夫ノ物ナリ
 一鮫ト柄木ノ間ニ糊アル故年過レハ蟲生シテ柄木
 ヲ損スル一アリ心掛アラシハ十年又ハ十五年
 ニ一度柄木ヲ取替テヨシ着セゴロシ鮫塗ゴメニ
 仕タルハ其害少シ
 古目貫

一觀美ノ物ナレ氏左迄失利ナシ心ニ任スヘシ近世
 逆目貫ナト云アリ又目貫ナシニシ其處ヲ菱結ニ
 スルアリ共ニ物好ナレ共菱結ハ弛テ惡シ又表裡
 一所ニ合セタルアリ用ユヘカラス
 一古代ハ毛貫形又家ノ紋ヲモ用ヒ近世ハ艸花鳥獸
 ノ類色々ノ物好アリ

柄卷 柄糸

一仕方數種アリ篠卷又ハ餘リニ紙ヲ籠タルハ弛テ
 害アリ太刀卷双寄ナト云アリ心ニ任スヘシ中古
 ノ物三十一菱双捨リナル多シ

一柄系黒ハ弱シ紺又淺黄ノ類ヨシ小倉糸木棉等モ
ヨシ革ハ用ユヘカラス

一ト目釘

一トト處目釘又ハニタ處目釘ニスルアリ一ト所目
釘ニ利アリ目釘ニ竹ヲ用ユヘカラス鯨髯ヲ佳ト

ス尤目釘ト同ク細キ革緒ヲ通シ結ビラクヘシ

一軍歌云木ハ折ル竹ハ挫ル鏡ハ飛ブ鯨ノ髯ニ勝ル

一ナシ

一大ナル蝸蚪ヲ陰干ニシ目釘ニ用ルモ佳トス急速

一ニ便ナラス

鞞

栗形 及角折金トモ云

一劔尺云鞞之鯉口ヨリ鏢ニ至テ歩合ヲ落ス恰好ハ

人ニノ物好次第ナレモ大概ハ長サ一尺ニ付テ五

厘落ノ割合ニテ鞞走リヨキ物也ト云是モ又ノ口

ヨリ出テ外觀ノ美ヲ欲スルノミ取ルニ足ス鞞ノ

細キハ暑寒雨濕ノ害アリ中古鞞ノ太キヲ見知フ

ヘシ今モ細川家ナトモ太亦トモ皆鞞太シ善ト云

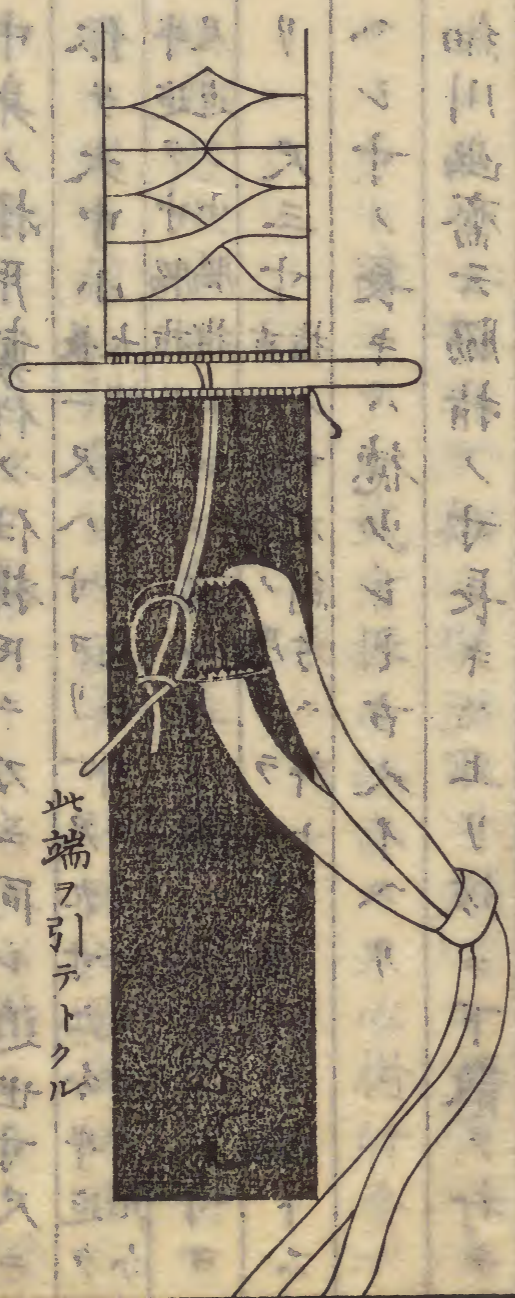
ヘシ且鞞走ルノ佳惡ハ戰場ニハ入ヌ下ナルベシ

按ルニ寒士ハ大小ノ差カヘモ少ナケレハ觀美ニ

固着シテ鞞ノ細キヲ用ユヘカラ又古キ鞞至テ

一及角ニ鍔アリ角アリ角ハ缺ヤスシ鍔ヲ善トス
 夫下緒栗沢ノ土ハ薙栗沢ノ村又ハハ薙ノ用ニ
 俗説區ニセラルニ是亦林攻城塙乘等ノ時カ下緒
 片端ヲ栗形ヘ結附片端ヲ帶ヘ結付カヲ塙ヘ立
 カケ鍔ヲ是亦金非言ノ塙土ヘ取乘下緒ヲ引キテ
 刀ノ束ル如クスル我アリ濼形ヲ夫夫ナリ此又旅
 宿等ノ大ホノ下緒ヲ結ヒ左右ニ置キ其上ヘ蒲
 團ヲシテ寝ヌル下アリ又鍔炮臺等ノ用アリ
 一鞘留ハ流儀ニヨリテ習アルニ然レモ治乱ノ別
 一鞘留ハ合同ニキルモノ又兼入ルモノトハホク

一太サ線香位ノ緒ニテ留ヘシ常ハ緒締アルモヨシ
 緒ハ一重廻シ片ヒガニ結ヒ糸ノ長キ端ヲ引ケ



一太サ線香位ノ緒ニテ留ヘシ常ハ緒締アルモヨシ
 緒ハ一重廻シ片ヒガニ結ヒ糸ノ長キ端ヲ引ケ

一 直ニ解也

一 大下脇指古ノ時ニテ留ヘシ常ハ終ニテ

一 中身ノ撰用製作ノ仕様ニ刀ニ同シ近世寸尺ニ

依テ大中小長一尺八寸ヨリ一尺九寸九分半迄ヲ

尺半造ヲ中脇指長一尺二寸ヨリ一尺七寸九分

尺造ヲ小脇指ト云ノ名アリト然レ尺長七八寸ヨ

リ一尺三寸古ノ勇士ノ用ヒラレシ脇指位ヲ法トス

ヘシ寸ノ長キハ徳少シト古人イヘリ

一 細川幽齋云脇指ノ寸長キハ上リ坂ニ下散ヲ打テ

艸卧ルニアリ

一本多正長云脇指ハ小脇指五尺三寸ヨシ首切ヲ

兼ル時ハ摺切分別スヘシ大方摺切レハ首又スニ

一 奪レ区又陳云脇指長キハ惡シ小脇指ハ堀乗舟

出ル時ナト脇指ヲ舷ニ突立取付テ下アリ用ニ立

一 守ト多シ陳云テ武者振モテ只心掛肝要夫

リ

一 酒井忠次味方ケ原一戦ノ後松樹ノ根ハ腰打掛ケ

一 扇ヲ出シ鎧以引合ヨシ風ヲイレ休ム居タル所ニ

敵三人馳来リ忠次ヲ撃ントス忠次心得タリト腰

ナル脇指長光備前長船住人ヲ抜放テ人ヲ胴切

テシ北ル二人ヲ袈裟掛テ斬ル餘ル及先傍テ藤松

樹ニ枝々ノカニ切付保暫取付サリ此意
 中心ニ裏ニ金象眼ニ鑄付テ本阿弥家ニテ見
 七シト澤氏談セリ
 一伊達政宗太坂後ニ三尺寸ノ刀并尺寸ノ脇指
 一佩テ敵ヲ戦フニ切鐔冠ヨリ打折レ脇指抜テ戦ヒ
 シト作ハ伊賀守金道ト云
 一古人今云刀ヲ太刀未唱ハ脇指ヲ及小云其知
 ルハ打刀腰刀鞘卷刀等色刀名目ハ書大抵
 一物兩名也宗五冊小サ刀ノ小尻ニ兼帶小尻ト云小近世ノ物素存
 姑息ノ不并以更ニ便利ナク用出カカラ者又丸小

尻ナト云物ハ古ヘノ懐指シ隱劍ノ小尻也ソレヲ
 脇指ノ小尻ニセシ物ナリ用ユヘカラス總テ刀脇
 指トモニ小尻ハ一文字ノ物ト心得ヘシ尤小尻小
 ロハ必ス金物アルヘシ利用多シ
 一長陳等ノ時他ヨリ魚鳥ナトノ贈物アリシ時用ル
 ノ具ナルヘシ大畧常ノ心得ニ同シカルヘシ
 一延柄ニシ小刀ノ鉾ヲ小鋸ニ仕タル物アリ櫃ヲ破
 一先年我藩ノ白須氏人込ノ中ニテ喧嘩ハ時刀ヲ抜

一、ハキ様モ大名脇指ノ小刀ニテ刺殺人透テ刀并
 抜シト也常ニモ丈夫ナル小刀ヲ用ユヘシ柄小刀
 一、モ延鏡ヲ良トス途々小鏡ニ掛テハハキ様ノ
 一、ハキ様ノ大畧宗ノハキ様ニ同クハキ様ノ
 一格別ノ利用ナシ鏡ニテスルヲ畧式トス烏銅ヲ佳
 トス尤金銀ヲ忌ムヘシ又割筭ト云アリ近世ノ物
 ナルヘシ金銀ノハキ様ノハキ様ノハキ様ノ
 一、陣中カ一名五行刀ハハキ様ノハキ様ノハキ様ノ
 一、此物先年作意ナル所也其利用多端アレ氏一二ヲ
 爰ニ云レ先ツ陳中威毛ノ切タル時錐裏面ニ曲尺
 ヲ鑄シ諸用

一、用ニテ柄ノ孔ヲ縹ニ緒系ヲ貫シ此糸ヲ猪ノ目ノ
 所ニテ挾出シ糸ヲ結テ小刀ニテ切ルヘシ又半開
 シテ「コシハツ」ノ用ヲ成スヘシ又五行刀ト號ル
 ハ仁義禮智信ニヨル名也其圖左ニ舉ク

陳中刀表面ノ圖 大サ圖ノ如シ

キリノ方

藤クツシ紋ヲ指掛リノ為ニス

裏面ノ圖 大サ圖ノ如シ

小刀ノ方

弘化三年八月日利貞銀之

水藩鈴木鐸物製

子シノ穴ノ面合 曲尺三寸五分下リ

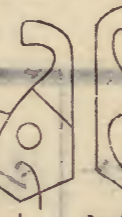
錐ノ方

手ノ... 側面合目ヨリ見タル圖

捻... 同ク合セタル圖

兩片分離ノ圖

紋ノ處 刺中ノ東西ノ圖



紋ノ裏ニ捻アリ計ニヒヨク其圖式ニ準ク此所一段低シ

捻

一左右へ開キ切タル所計テ捻有所ヨリ取レル也亦

離ナラサレハ一方斗遣フニ便ナラザレバナリ

一脇指ニハ筭小刀ノ櫃アレバ刀へ筭櫃ノ如クシ此

陳中刀ヲ指用ルモ便利ナリ

刺刀一名妻手刺

一脇指ニテ兼用スベシ尤心ニ任スベシト雖戰場ニ

立テハ人々得道具ヲ携レハ三刀大少ヲ帶スルモ

無益ト云ベシ且刺刀ヲ設ル人々戰場組討ノ用又

頸取ノ利アリト組討ハ我ヨリ敵ノ刺刀ニテ突ク

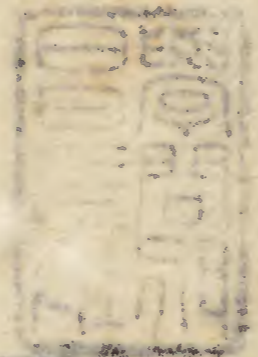
一習ヒ也又刺刀ニテ首ヲ取ルハ大ナル過ナリ尋

常ノ刀量ニテ刺刀ヲ以テ首ヲ搔落ス一如何アル

一古人云首ヲ取ルニバカノ先ニテ磨切ルモソ也
 又槍ツケテハ其槍ヲ拔キ下卒ヲ命シテ其敵ノ首
 ヲ取ラズト云ヘリ
 燧袋犬招ハ上古火打石并ニ守リ等
 ヲモ納シト見ヘタリ方今ハ守リヲ懐中ニシ火打
 石ハ別ニ携レハ別ニ燧袋ヲ用ルニ及ハス又犬招
 ト云モノハ古代犬追物アリシ時下卒脇指ニ仕付
 ケ犬ヲ牽出スニ便ニス此二物共ニ無益ノモノ也

燧袋ハ大小氏ニ附レト事多クテ煩シ犬招キハ山
 林等馳驅ニ障碍アリ決テ用ユヘカラス是等ノ物
 付ルハ必竟觀美ノミ泰平ノ物好ト云ベシ又見鞘
 去ト云モノアリ是又利用ナシ右等ノ器伊勢安齋
 翁カ刀劍問答ニ詳ナリ
 一牛皮ヲ善トス又尻鞘トテ虎豹ノ皮ナトニテスル
 アリ是單騎ノ具ニ非ス
 一中古刀ハ血溜リシ又ハ反曲セシ時ナト鞘ヲ打割
 中古鞘金物ノ紙燃等ニテ結ヒ引膚へ入レ用ヒシ

一柄袋紀錄ニ見ヘズ近世人物成ベシ利用ナシ用ニ
 ベカラズ（此等ノ柄袋ハ其ノ非ニシテ其ノ用ニシテナリ）
 一其製多端ナレ用ユベカラズ古戦國ノ士ハ大小
 一上帶ニ指レシ也其法神原香山翁カ刀劍考ニ
 委シ云々（其ノ詳ハ其ノ書ニシテナリ）
 一前條ニ臚列スレト捷便ノ類ニ爰モ其順次ヲ録ス
 第一中身ヲ撰ム第二中研青砥ニスヘシ第三鋸俗ニ錆切ト云



切羽鐔縁頭目貫柄系第四柄鞘搔入第五鞘塗欄鮫
 取揃ヘラクベシ
 着第六柄卷第七上塗

一拵ニ預ル品縁頭目貫柄系類拵テ何ニヨラス此品
 ヲ先ツ仮ニ付ルト云フハスベカラス後ニテ彼是
 スルハ成ラヌモノ也多ハ其儘ニ成ル也別テ鞘ナ
 ト氣ニ入ラ子ドモ塗モ損ゼスナト云テ用ル者ア
 リ不覺ト云ベシ拵ノ品一定決断セサルモノ必ス
 用ユベカラズ如何ト云ニ劍刀ハ治乱トモニ身命
 ヲ託シ又終身守護ノ要品ナレ也
 一大示トモ柄鞘ニテ長如何尺何寸又鞘斗何尺ナ

一水云ヲ心得ハクシ陳所ノ間數ヲ知ルニモ又物見等ニ出テモ又平常ニモ必ス其利用多シ

用之ハクシクハ吹所ト云ニ陳所ノ間數ヲ知ルニモ又物見等ニ出テモ又平常ニモ必ス其利用多シ

リ不覺ト云ハクシクハ吹所ト云ニ陳所ノ間數ヲ知ルニモ又物見等ニ出テモ又平常ニモ必ス其利用多シ

ト云ハクシクハ吹所ト云ニ陳所ノ間數ヲ知ルニモ又物見等ニ出テモ又平常ニモ必ス其利用多シ

ト云ハクシクハ吹所ト云ニ陳所ノ間數ヲ知ルニモ又物見等ニ出テモ又平常ニモ必ス其利用多シ

ト云ハクシクハ吹所ト云ニ陳所ノ間數ヲ知ルニモ又物見等ニ出テモ又平常ニモ必ス其利用多シ

一水ニ附ル品類諸日貴味名賤諸ヲ附ニモ又物見等ニ出テモ又平常ニモ必ス其利用多シ

味類六味表第ニ土盤ト云ニ陳所ノ間數ヲ知ルニモ又物見等ニ出テモ又平常ニモ必ス其利用多シ

味類六味表第ニ土盤ト云ニ陳所ノ間數ヲ知ルニモ又物見等ニ出テモ又平常ニモ必ス其利用多シ



食甲新論

